



企業による「森のプログラム」に対するニーズの把握

はじめに

「森林サービス産業」は、健康、観光、教育等の分野で、豊かな森林空間を活用した「森のプログラム」を提供することにより、山村地域に新たな雇用と所得機会を生み出す産業です。森林サービス産業に取り組む「森林サービス産業推進地域」は、2024年6月末時点で、53地域に広がっています。

本シリーズでは、「森林サービス産業」による山村振興の取組について、3回にわたってご紹介します。



写真提供：株式会社ウノノハウス

初回は、林野庁の取組として、昨年度、企業による「森のプログラム」に対するニーズを把握するために行った調査の結果を報告します。

1 趣旨

山村地域にとって、企業向けに「森のプログラム」を提供することは、まとまった人数の定期的な訪問・利用を期待できるとともに、個人としては無関心な方にも、企業を通じて、地域の魅力を伝えることが可能となります。また、研修の受け入れをきっかけに、地域と企業が継続的に関わるようになり、企業による地域でのイベント開催や地域振興のアイデア提供に至るなどの波及効果も期待できます。

そこで、林野庁では、企業のニーズを踏まえた「森のプログラム」の開発・普及を促進するため、企業ニーズを把握するためのオンラインアンケート調査を実施しました。

2 調査方法

調査では、アンケート実施機関に登録されているモニターのうち、勤務先の事業所が国内にあり、勤務先の経営方針やCSR活動等を十分に把握している方で、勤務先の事業所で、森での活動の6つの分野のうち、「1つ

以上で」導入実績あり」の300名と、「導入実績なし」の200名を対象としました。

対象者に対しては、6つの活動分野それぞれについて、プログラム導入の実績を確認した上で、(1)プログラム導入の意向、(2)導入の目的、(3)導入の決定要因、(4)導入までの課題等について質問しました。

3 調査結果

(1) プログラム導入の意向

まず、「導入実績あり」と「導入実績なし」の対象者全員に対して、今後のプログラム導入

の意向を尋ねました。

その結果、「導入実績あり」の回答者のうち、「今後、別の分野の活動も導入したい」と回答した者の割合は、約6割でした。また、「導入実績なし」の回答者のうち、「今後導入したい」と回答した者の割合は、約3割でした。

導入実績がある企業では、活動を拡大したいと考えている割合が高く、導入実績がない企業でも、関心を持っている者が一定程度あると言えます。

(2) プログラム導入の目的

導入の目的については、「導入実績あり」の回答者に対して、「従業員の環境教育」、「従業員の健康増進」、「福利厚生充実」、「コミュニケーション促進」、「企業イメージの向上」、「生産性の向上」、「社会課題解決に向けた貢献」等の14選択肢から上位3つまでを選択して頂き、導入した活動分野別にとりまとめました。

その結果、いずれの活動分野でも、「環境教育」と「健康増進」の割合が2割〜3割、「コミュニケーション促進」が2割弱あり、こうした目的での利用が多いことが分かりました。

(3) プログラム導入の決定要因

導入の決定要因については、「導入実績あり」の回答者に対して、「内容が魅力的」、「効

アンケートの対象

企業の森林での活動6分野

- ①従業員等の参加による森林整備や環境保全などの活動
- ②森林浴やアウトドアアクティビティによる従業員の健康づくり
- ③山村地域での環境教育やアクティブラーニングなどの人材育成
- ④山村地域でのリモートワークやワーケーションの推進
- ⑤山村地域とのつながりや地域住民との交流を目的とした活動
- ⑥山村地域での宿泊や観光への費用補助などの福利厚生

①～⑥のうち、どれかひとつでも導入実績がある企業

今後、導入実績のない別の活動も導入したい企業
回答数174

回答数300

①～⑥のうち、ひとつも導入実績がない企業

今後どれか導入したい企業
回答数68

回答数200

果エビデンスあり」、「提供目的に共感」、「費用が適切」、「アレンジ可能」、「地域との連携」、「自社から近い」等の10選択肢から、上位3つまでを選択して頂き、導入した分野別にとりまとめました。

その結果、いずれの活動分野でも、「内容が魅力的」、「効果エビデンスあり」、「提供目的に共感」が2割程度となり、プログラムの内容や効果のみならず、提供目的も重視されていることが分かりました。

(4) プログラム導入までの課題

導入までの課題としては、「導入実績あり」の回答者に対して、「ニーズに合う提供先が見つけれなかった」、「受入体制ができていなかった」、「費用対効果が不明」、「受入側との調整が進まなかった」、「相談先が不明」、「社内のコンセンサスが得られなかった等の8選択肢から、該当するものを全て選んでいただきました。

その結果、「提供先が見つけれなかった」の回答割合が、いずれの活動分野でも3割弱となり、関心を有する企業に対して、プログラム提供地域の情報が十分に届けられていないことが明らかになりました。また、「受入体制ができていなかった」も2割程度あり、地域側の体制整備も課題であることが分かりました。

(5) まとめ

以上から、企業は森のプログラムに高い関心を有しており、更にプログラムを活用して頂くためには、内容が魅力的かつコンセプト

が明確なプログラムを開発した上で、企業の受入体制を整えるとともに、企業向けの情報発信・プロモーションを強化していくことが重要であると言えます。

調査結果を踏まえて、林野庁では、本年4月に、実際に森のプログラムを導入している企業の声を集めた「企業等による森のプログラム活用事例集」を作成しました。

同事例集では、20企業等を対象に、「導入の経緯と決め手」、「取組内容とその効果」、「役割分担と参加促進に向けた取組」を整理するとともに、プログラムに参加した従業員の声も紹介しています。

林野庁では、この事例集を林野庁ウェブサイト掲載するとともに、様々な機会を捉えて情報発信を行うことで、企業向けのプロモ-



写真提供：TOPPANグループ健康保険組合

TDKラムダ株式会社

業 種：製造業
U R L：https://www.jp.lambda.tdk.com/ja/index.html

本社所在地：東京都中央区

若年層の社員研修等に森林セラピー®や森林内での協働作業などのプログラムを導入。チームビルディングやストレス耐性をつけることを目的に、社有林を活用して、新入社員等の若年層社員を対象とした研修に、森林セラピー®、森林整備体験、間伐材を使ったオブジェづくり等の森林内での協働作業など、多様なプログラムを導入している。

導入の経緯と決め手

社有林の有効活用を検討している中で、2007年に信濃町と「森林の里親協定」を締結。信濃町が森林セラピー®に取り組んでいることを知って、翌年春から、それまで本社で開催していた新入社員研修を信濃町での開催に切り替え、森林セラピー®等のプログラムを取り入れることとした。

トータルの費用は従前とあまり変わらず、社有林を活用できることが決め手となった。

取組内容とその効果

<実施地域：森林サービス産業推進地域「長野県信濃町地域」>

チームビルディングやストレス耐性をつけることを目的に、通常の座学に加えて、森林セラピー®、森林整備体験、間伐材を使ったオブジェづくり等の森林内での協働作業など、多様なプログラムを導入。

共通の体験という、「連帯感の醸成」が離職率低下（3年以内退職者：12%→3%）につながっていると感じている。

今後は、管理職や経営層等のコーチング研修にも取り入れていきたいと考えており、2023年度は、経営層を対象として森トリートを実施。

役割分担と参加促進に向けた取組

企業が、地域の窓口のしなの町Woods-Life Communityに相談し、地域で提供されているプログラムから選択して研修に導入している。（社有林の整備は、地元団体に委託）

研修の対象は、社員から要望があったことや昇格への意欲喚起、自己のキャリアを考える場の提供等の観点で、徐々に拡大しており、2021年から6年次研修も実施。

■プログラム構築：企業が、地域で提供されているプログラムの中から選定し、研修に導入。

■導入形態：参加必須の研修（日帰り）

■対象者：若年層（新入社員・2・3年次、6年次）

■費用負担：企業が全額負担

目的

- メンタルヘルス・健康づくり
- チームビルディング・社内コミュニケーション強化
- 能力向上・内省（経営層）
- 経営・プロジェクトに新たな視点をもたらす（経営層）
- その他（人材確保）

結果（企業の声）

- 座学だけの研修では、新入社員同士なかなか心のバリアがなくならないが、体験活動と一緒に行うことで、関係性が深まることを実感している

従業員の声

役員全員で参加した「森のリトリート」3日間で約14時間が森に入り一人で過ごす時間。心理的安全性に守られた中で森林と一体となり、焚火を囲んだ話合いの場は、様々な対話が自然発生し内省できる豊かで貴重な場でした。

「企業等による森のプログラム活用事例集」掲載例

シオンに活用しています。また、来年2月には、都内において、森林サービス産業推進地域と企業等をつなぐフォーラムを開催することとしています。

引き続き、情報発信を通じて、「森林サービス産業」による山村振興に努めてまいります。

詳細は、林野庁ウェブサイト「森林サービス産業の創出・推進」に掲載しています。

林野庁ウェブサイト「森林サービス産業の創出・推進」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou.html

